

平成20年度 第1回青森県あすなろリーグ (U-14) 並びに
平成21年度 第1回青森県あすなろリーグ (U-15) 参入方法及び日程 (案)

参入方法と参入条件

◇日本サッカー協会登録は必須。

- ①平成20年度はクラブ連盟加盟チーム・中学校体育連盟加盟チームから希望するチームを募って行う。
- ②選手数が不足(11人に満たない場合)の場合、複数チームによる合同チームは認めない。
ただし次年度に選手数が増えた場合は、U-15リーグには下位ブロックから参加できる。
- ③帯同の審判(主審・副審)ができるチーム。
- ④グラウンド・ピッチ提供ができるチーム。※自チームのピッチ以外でも可。
- ⑤チーム責任者が参加を承諾したチーム。

想定内の運用方法

※想定内とは→全部で24チーム前後参加を予想。

※8チーム以下、または24チーム以上参加の時はブロックを分けるなど再考する。
また、2年目以降の参加チーム数増加についても検討を重ねる。

【その1】 20年度「あすなろ新人リーグ(U-14)」について

1 ファーストステージ … ブロック分け

「1ブロック6チーム×4ブロック」のリーグ戦

Total チーム数	ブロック NO	チーム数
1~6	A	A1~A6
7~12	B	B1~B6
13~18	C	C1~C6
19~24	D	D1~D6

<Aブロックの例>

- ①総試合数=15、1チーム5試合
- ②1会場1日4試合として計算すると5日間のリーグ戦となる。
- ④予備日を設ける

2 セカンドステージ … 拮抗したリーグ戦をファーストステージ終了後行う

① 上位チームのリーグ戦

「Aブロック+Bブロック上位3チーム」(計6チーム)でリーグ戦(計9試合
試合例) ※3日間でリーグ戦を行う

A1位対B1位	A1位対B2位	A1位対B3位
A2位対B1位	A2位対B2位	A2位対B3位
A3位対B1位	A3位対B2位	A3位対B3位

※「Cブロック+Dブロック上位3チーム」(計6チーム)でリーグ戦(計9試合)
についても同様。

※上位4チーム×2=8チームが次年度1部リーグ(チャンピオンリーグ)へ参戦。

※残り4チームは次年度2部リーグ(チャレンジリーグ)へ参戦。

② 下位チームのリーグ戦

「Aブロック+Bブロック下位3チーム」（計6チーム）でリーグ戦 計9試合
 試合例) ※3日間でリーグ戦を行う

A4位対B4位	A4位対B5位	A4位対B6位
A5位対B4位	A5位対B5位	A5位対B6位
A6位対B4位	A6位対B5位	A6位対B6位

3日間のリーグ戦

※「Cブロック+Dブロック下位3チーム」（計6チーム）でリーグ戦 計9試合
 についても同様。

※上位2チーム×2=4チームが次年度2部リーグ（チャレンジリーグ）へ参戦。

※残り8チームは次年度3部リーグ（ファームリーグ）へ参戦。

③スケジュール

月	8月	9月	10月	11月	11月
ゲーム数	2	2	2	2	予備1

※8月から開始。月2回実施。

【その2】 21年度「あすなろリーグ(U-15)」について

①ブロック 「1ブロック8チーム×3ブロック」のリーグ戦

区分け	リーグ名	参加チーム数
1部	チャンピオンリーグ	8
2部	チャレンジリーグ	8
3部	ファームリーグ	8

各リーグとも

①総試合数=28、1チーム7試合

②1会場1日4試合として計算すると
7日間のリーグ戦となる。

④予備日を設ける

②スケジュール

月	4月	5月	6月	7月(前半)	8月
ゲーム数	1	2	2	2	予備

※できれば4月から開始して月に1~2回実施。

※高円宮杯との関連について。

高円宮杯の県予選は行う。従って地区の予選も実施する。ただし、あすなろリーグから高円宮杯県予選へのシード権等については後ほど決定する。

各地区協会主催の大会・中体連との関連

①基本的に各地区協会が行うローカル大会は整理・統合していく方向。

→理事会にて承認を得たい。

②あすなろリーグとタイアップできる地区協会については大会名等を残しても可。

→理事会にて検討

③中体連・クラブチームとも地区予選・県予選を行う間は当該チーム以外でゲームを進める。

④中体連新人戦の県大会については、U-14リーグに変えて廃止の方向で進める。

→中体連新人戦は県サッカー協会主催なので、理事会で承認。中体連で承認。

※中体連新人戦県大会の廃止について…中体連サッカー専門部、サッカー協会の歴史を考慮すると廃止することについては気持ちが揺らぐところです。しかしながら限られたチームを対象に試合を行う県大会よりも多数のチームによるリーグ戦を行うことがプレーヤーズファーストにつながると考えました。

あすなるリーグ経費見積

20年度「あすなる新人リーグ(U-14)」の1会場あたり

会場費	学校・公共施設	5000円×5日間	25,000
審判経費	帯同審判を併用	主2000円、副1000円	60,000
会場経費	運営費	3000円×5日間	15,000
役員経費	交通費等	2000円×5日間	10,000
備品費	ボール代	5000円×6個	30,000
合 計			140,000
1チーム参加料			20,000
日本協会から補助金			20,000

上記試合への1チームあたりの参加費用概算

遠征費	宿泊費(個人)	3回の宿泊として 7000円×3泊	21,000
	貸し切りバス(チーム)	60000円×6日	360,000
	その他	昼食・飲料水1000円×5回	5,000
20名の場合の選手個人負担			44,000

20年度「あすなる新人リーグ(U-14)」上位・下位チームリーグの試合

会場費	学校・公共施設	5000円×3日間	15,000
審判経費	帯同審判を併用	主2000円、副1000円	36,000
会場経費	運営費	3000円×3日間	15,000
役員経費	交通費等	2000円×3日間	10,000
備品費	ボール代	5000円×3個	15,000
合 計			91,000
1チーム参加料			10,000
日本協会から補助金			30,000

上記試合への1チームあたりの参加費用概算

遠征費	宿泊費(個人)	1回の宿泊として 7000円×1泊	7,000
	貸し切りバス(チーム)	60000円×2日	120,000
	その他	昼食・飲料水1000円×3回	3,000
20名の場合の選手個人負担			13,000

※補助金等を活用し各チームの負担を軽くできる方法を考慮中です。

リーグ戦構造図

U-14あすなろリーグ

※平成20年8月～10月

Total	NO	ファースト ステージ
1	A1	Aブロック
2	A2	
3	A3	
4	A4	
5	A5	
6	A6	
7	B1	Bブロック
8	B2	
9	B3	
10	B4	
11	B5	
12	B6	
13	C1	Cブロック
14	C2	
15	C3	
16	C4	
17	C5	
18	C6	
19	D1	Dブロック
20	D2	
21	D3	
22	D4	
23	D5	
24	D6	

A+Bブロック上位3チーム

A+Bブロック下位3チーム

C+Dブロック上位3チーム

C+Dブロック下位3チーム

U-15あすなろリーグ

※平成20年10月～11月

※平成21年4月末から開始

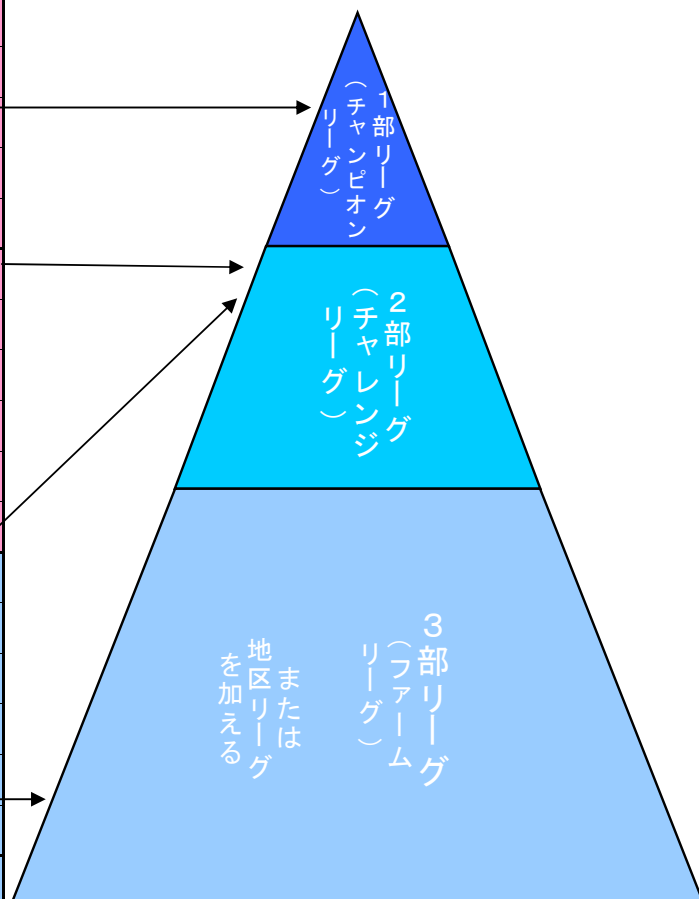
Total	セカンド ステージ
1	A1位
2	A2位
3	A3位
4	B1位
5	B2位
6	B3位
7	C1位
8	C2位
9	C3位
10	D1位
11	D2位
12	D3位
13	A4位
14	A5位
15	A6位
16	B4位
17	B5位
18	B6位
19	C4位
20	C5位
21	C6位
22	D4位
23	D5位
24	D6位

上位8チーム

下位4チーム

上位4チーム

下位8チーム



平成21年度は
前年度に参加できなかった残ったチーム等
については生活地区でのリーグ戦を行う

平成20年度第1回青森県あすなろリーグ(U-14)開催要項 (大会要項)

- 1 名称 平成20年度第1回青森県あすなろリーグ(U-14)
 - 2 主催 (社)青森県サッカー協会
 - 3 主管 (社)青森県サッカー協会三種委員会、青森市他各地区サッカー協会
- ※後援についてはまだ考えていない。県教委、体協、中体連等
- 4 協賛 株式会社モルテン
 - 5 期日
ファーストステージ
第1節 8月9日(土)・10日(日) 第2節 8月23日(土)・24日(日)
第3節 10月4日(土)・5日(日) 第4節 10月11日(土)・12日(日)・13日(月)

セカンドステージ
第6節 10月25日(土)・26日(日) 第7節 11月8日(土)・9日(日)
第8節 11月22日(土)・23日(日)
 - 6 会場 青森市スポーツ公園、弘前市運動公園、岩木山総合、岩木山青少年、五戸ひばり野三沢市南山運動場、十和田市若葉公園、十和田市南運動広場、七戸町総合運動公園、八戸市新井田運動公園、参加チームグラウンド ※未定です
 - 7 参加資格 (1)(財)日本サッカー協会に第3種登録した加盟チームもしくは準加盟チームであること。
(2)(1)項のチームに登録された選手であること。
(3)(財)日本サッカー協会により「クラブ申請」を承認されたクラブに所属するチームについては同一クラブ内の別のチームに所属する選手を移籍手続きを行うことなく本大会に参加させることができる。この場合、同一クラブ内のチームであれば、複数のチームから選手を参加させることも可能とする。なお、本項の適用対象となる選手の年齢は第4種年代とし、第3種及びそれ以上の年代の選手は適用対象外とする。
(4)中学校においては、校長の出場承認を受けたチーム、その他のチームについては組織を代表する者の承認を受けたチームとする。
(5)帯同審判(主審または副審)を出せるチーム。
(6)ピッチを提供できるチーム。(自チームの施設以外でも可)
※選手数が11人に満たないチームについて。
1 次年度のリーグ戦へつながる大会なので複数チーム合同での参加は認められない。
2 今年度中にクラブチームを結成して次年度から活動が行われる場合は参加を認める。従ってこのときだけ(U-14)のチーム結成は認めない。
 - 8 参加チーム 平成20年度第1回あすなろリーグに参入を希望するチーム。
 - 9 競技方法 (1)参加チームを6チームずつ4つのブロックに分ける。各ブロック1回戦総当たりのリーグ戦とする。
(2)ファーストステージについては試合時間は60分(30分ハーフ)とし、ハーフタイムのインターバル(前半終了から後半開始まで)は原則10分とする。セカンドステージについては試合時間を70分(35分ハーフ)とし、他は(インターバル)同様とする。
(3)順位の決定について
ファースト・セカンドステージとも
①勝ち点(勝3点、引き分け1点、負0点) ②当該チームの対戦成績(勝敗)
③ゴールディファレンス ④総得点 ⑥抽選(コイントス)
(4)ファーストステージのブロック分けについては参加チームの地区等を考慮し三種委員会で決定する。
 - 10 競技規則 大会実施年度の(財)日本サッカー協会競技規則による。ただし、以下については本大会規定を定める。
(1)協会登録選手の中から各節ごとに20名の選手を登録できる。
(2)選手交代は競技開始前に登録した最大9名の交代要員の中から最大9名までとする。
(3)ベンチ入りできる人員は12名(指導者3名、選手9名)を上限とする。
フリーな交代は認めない
(4)本大会において退場を命じられた選手は、次の試合に出場できず、それ以降の処置については本大会の規律・フェアプレー委員会において決定する。ただしこの処置に該当する試合は県レベル以上の大会すべての競技会に適用する。(予選も含める)

(5)本大会期間中に警告を2回受けた選手は、次の試合に出場できない。ただしこの処置に該当する試合は本大会のみとする。

1 1 表 彰 優勝以下3位まで表彰状を授与し、優勝チームには優勝杯を授与して次回までこれを保持せしめる。

1 2 参加申込 参加チームは、以下の手続きを期日まで完了すること。
(1)参加申込書・選手登録用紙をEメールで申込先Aに提出する。
(2)大会参加料の納入20,000円を申込先Bの指定口座に納入する。
(3)参加申し込み締め切り 平成20年6月20日(金) 17:00

[申込先] A:三種委員会委員長アドレス	① mi01jhsc@peace.ocn.ne.jp
	② kaz_s@h6.dion.ne.jp
B:社団法人青森県サッカー協会 三種委員会 委員長 佐川一則	
〒033-0011 三沢市幸町1丁目6-27 Tel 0176-50-2866 Fax 0176-50-2867	
[参加料振込口座] 青森銀行三沢支店 1179919	
名義 社団法人青森県サッカー協会 三種委員会 委員長 佐川一則	
※ 振込人にチーム名を必ずご記入ください。	

1 3 追加登録 選手の追加登録は日本サッカー協会のWeb上(Kick Off)で申請すること。また、選手の移籍に伴う追加登録については移籍手続きを完了してから行うこと。追加登録の申請締め切りは各節の3日前17:00までとする。

1 4 ユニフォーム (1)ユニフォーム(シャツ・ショーツ・ストッキング)は正の他に、副として正と異なる色のユニフォームを参加申し込みの際に記載し、各試合に必ず携行すること(FP・GKとも)。
(2)審判(黒色)と同一または類似したシャツを試合において着用することはできない。
(3)ユニフォームの色・背番号の参加申し込み以降の変更は認めない。
(4)シャツの前面・背面に選手登録用紙に記載された固有の番号をつけること。
(5)その他については(財)日本サッカー協会のユニフォーム規定による。

1 5 帯同審判員 このリーグは相互審判で行うため、出場チームは(財)日本サッカー協会認定審判員を帯同させること。また、帯同する審判員の氏名、資格等を参加申込書に記載すること。

1 6 監督会議 行わない。組合せ、試合時間等決定後、参加チームに通知する。

1 7 負傷及び事故の責任
大会期間中の負傷及び事故の責任は、当該チームが負うこととする。また、医師及び救急用品の準備は各チームの責任において行う。

1 8 そ の 他 (1) このリーグの上位8チームは平成21年度あすなるチャンピオンリーグ(1部リーグ)に、それ以下のチームについては、同チャレンジリーグ(2部リーグ)以下のリーグ戦に原則として参戦すること。
(2) このリーグの上位8チームの中から平成21年度東北みちのくリーグに参加するチームを決定する。
(3) このリーグの上位8チームは平成21年度高円宮杯青森県大会の地区予選を免除する予定。※高円宮杯の要項ができ次第決定。
(4) 出場チームは選手証もしくは選手登録証明書(日本協会並びに青森県サッカー協会の印が捺印されているもの)を必ず持参すること。不携帯の場合は当該試合への出場を認めない。
(5) 各試合の競技開始時間の70分前に大会本部において代表者ミーティングを開催し、メンバー登録用紙の回収、両チームのユニフォームの決定、諸注意事項の説明を行う。
(6) 本大会において規律・フェアプレー委員会を組織し、委員長は3種委員長が兼任する。委員の人選については委員長に一任する。
(7) 大会規定に違反し、その他不都合な行為が発生した場合は、そのチームの本大会の出場を停止する。
(8) 大会要項に規定されていない事項については本大会を運営している3種委員会において協議の上、決定する。
(9) 参加選手は、傷害保険に加入し大会での傷害に対応すること。

付 則 本リーグの運営にあたっては(社)青森県サッカー協会の3種委員会があたり、大会を円滑に行うために業務を遂行する。



平成19年11月27日

第三種登録チーム各位

社団法人 青森県サッカー協会
三種委員長 佐川 一 則

青森県「あすなろリーグ」実施に伴うアンケート調査について(照会)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当協会では平成20年度から、青森県あすなろリーグ(U-14)、21年度からあすなろリーグ(U-15)を実施することとしております。

つきましては、来年度からの当該リーグ実施に際し、あらかじめ登録チームの参加意向等について把握しておきたいと考えておりますので、時節柄お忙しいところ恐縮ですが12月末まで別紙アンケートにより回答いただくようお願いいたします。

※ F A XまたはE-mailでご回答ください。

記

アンケート提出先

NO	地区	担当者 提出先
01	青森	川村 秀一 青森市立 東中学校 Tel 017-726-2135 Fax 017-726-2226 E-mail mailto:touchu@infoaomori.ne.jp
02	中郡・弘前・南郡 黒石・西郡・北郡 五所川原	佐藤 守人 NPOリベロ津軽スポーツクラブ Tel 0172-35-0043 Fax 0172-33-1446 E-mail info@libero-tsc.com
03	十和田 上北郡 三沢	大竹 旭 十和田市立 十和田湖中学校 Tel 0176-75-2350 Fax 0176-75-2372 E-mail o-take-a@sepia.plala.or.jp
04	八戸 三戸郡	宮崎 幸司 八戸市立 大館中学校 Tel 0178-25-5315 Fax 0178-30-1024 E-mail koji_miya_koji@ybb.ne.jp

はじめに

日本サッカー協会（JFA）では『2・3種改革プロジェクト～世界トップ10を目指して～』を昨年度立ち上げました。さらに、JFAは3種年代の強化・育成こそが日本サッカー協会の今後の隆盛をもたらす最優先の課題として位置づけています。

青森県としてこの課題を解決するために、選手の育成と三種年代の活性化を目標に掲げ、全県リーグの実施を進めていきたいと思えます。

あすなろリーグ発足の意義と方向性

「プレーヤーズ・ファーストという視点に立った、レベルに応じた（拮抗した）、長期間を通じて行われる定期的な（M-T-Mメソッドに基づいた）2・3種年代のリーグ戦を整備し、リーグ戦文化の定着を目指す。」これがJFAが目指すリーグ戦の姿です。

これを受けて県サッカー協会三種委員会として全県リーグの実現を模索してきました。全県規模によるリーグ戦が展開される意義とは、

- ①トーナメントで勝ち上がるための戦い方からの脱却
- ②ハイレベルの試合を多く経験できる方式

による真のチャンピオンチームを生み出すことができる。ということになります。

多少の困難を乗り越えて全県での「あすなろリーグ」実施をしていきたいと思えます。

もちろん、三種登録チームの中には、競技志向ではなく楽しむことを目的にしたチームもあると思えます。また、少子化の影響で、その域に達することが物理的に無理だという環境があることも理解しています。このようなことを踏まえながら、

- 1、全県「あすなろチャンピオンリーグ」（1部リーグ）を発足
- 2、同時に「あすなろチャレンジリーグ」（2部リーグ）を発足
- 3、地区リーグを立ち上げ、全県「あすなろリーグ」昇格を目指すリーグ戦

※あすなろリーグに参入を希望しない、またはできないチームのために、継続的なリーグ戦を整備することにも継続的な課題として取り組みます。

これらのことを、地区単位の協会ではなく、全県で足並みをそろえていきたいと考えています。

もちろん、中体連、クラブの大会はおのこの連盟で行い、高円宮杯については「あすなろリーグ」の結果も採用できるよう考慮しました。

以上のように、ハイレベルのチーム・選手の輩出だけを掲げたものではなく、今まで以上にサッカーファミリーが満足していただける活躍の場を、公正な棲み分けによって行うということです。

青森県あすなろリーグ実施に関するアンケート

チーム名	
所在地	
所属地区番号	
記入者氏名	
連絡先電話番号	
Fax番号	
E-mail	

※所属地区番号について

0 1	青森	0 3	十和田・上北・三沢
0 2	中・弘・南・黒・西・北・五	0 4	八戸・三戸

問 1 あすなろリーグ参加の意思について

1. 20年度から参加したい
2. 将来的に参加したい
3. 参加しない
4. わからない
5. その他（具体的に)

問 2 問 1 で1.または2.とお答えしたチームに伺います。

参入する上での問題点等がありましたらお願いします。（複数回答可）

1. 費用の面
2. チーム力の面
3. チーム（学校）のスケジュールの面
4. ハードの面（グラウンド・移動手段等）
5. その他（具体的に)

問 3 問 1 で3.とお答えしたチームに伺います。

参加しない理由・問題点等がありましたらお願いします。（複数回答可）

1. 費用の面
2. チーム力の面
3. チーム（学校）のスケジュールの面
4. ハードの面（グラウンド・移動手段等）
5. その他（具体的に)

※ その他ご意見がありましたらお書きください。

--	--

あすなろリーグ参加についてのアンケート結果

(社)青森県サッカー協会三種委員会

	1	2	3	4	5	6		
地区	20年度から参加	将来的に参加	参加しない	わからない	その他	回答なし	合計	割合
青森地区	5	5	2	3	1	3	19	26%
中弘南黒西北五地区	3	5	10	3	1	5	27	11%
八戸地区	5	1	3	3	0	15	27	19%
十和田・上北・三沢地区	12	1	0	0	0	6	19	63%
合計	25	12	15	9	2	29	92	27%
	37						92	40%

意見等のまとめ

青森地区	<ul style="list-style-type: none"> ①クラブチームなら可能だと思うが・・・。 ②費用・グラウンド・チーム力・大会数に不安。 ③部員が少ない。 ④費用がかかり過ぎる。 ⑤校長の理解が得られない。 ⑥費用・顧問の負担と行事の関係に不安。 ⑦移動や日程に不安。⑧生徒数・部員数が減少している。 ⑨日程が厳しい。試合・遠征・参加数。 ⑩スタッフ・グラウンド確保に不安がある。 ⑪明確な理由でリーグ分けをして欲しい。
中弘南黒西北五地区	<ul style="list-style-type: none"> ①移動費、スケジュールの面が特に無理。 ②弘前市内でサッカー場がある中学校は少ないと思います。また、活動費が十分確保できないチームがあると思います。機会があれば、参加してみたい気持ちもあるのですが・・・。 ③学校の部活がクラブチーム的な形であればできるかもしれないが、現時点の形から参加しようとする場合は、組織的な部分で少し変えただけでは無理だと思います。※ただいろいろ書きましたが弘前地区でやるリーグ戦に参加する前提で人数、費用とチームの体制(指導者・顧問等)で参加できないのがチームの現状です。 ④本校グラウンドは一面とれない。また、一般の施設は日時が決定しないと予約できない。青森市を会場にすると集まりやすい。また、学校の部活では遠征費や宿泊費の面でかなり難しいと思う。まず、生活地域のリーグ戦を先に整備すべき。 ⑤参加したい気持ちもあるが、交通手段や宿泊費用等が非現実的である。宿泊の必要が無い日程だけになると可能性が増えると思うが、年に何度も宿泊は現実的には厳しい。 ⑥10月は修学旅行、文化祭等、行事がたくさん入っている。グラウンドもセカンドステージの時期は使用不可になりやすい。 ⑦ボールについては持ち寄りでも良いのではと思います。費用を少しでも安く抑えてもらえれば嬉しいです。
八戸地区	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動というくくりでは、スケジュールやハード面で大きく負担がかかる。学校の教職員の中でサッカー経験者が部活担当できない場合も多い。帯同審判の面も厳しい。 ②セカンドステージに予備日は無いが、参加できない日があった場合どうなるのか。代表を集めての説明会をお願いします。 ③五戸協会主催での大会運営により日程がとれない。学校行事等で日程が重なり当該チームでの相談で日程を改めて実施が困難。当該チームでレフリーを相談し試合を行うが、客観性に欠けるのではないかと。また、審判報告をどのように行うか。子供の全人的な成長を図るには、大会出場、練習試合等を含め、その時点で子供の実態に合わせて選択を指導者が考えて行うことが必須。参加によって選択の余地はなくなる。学校週5日制の趣旨、父母の教育力の発祥の場は保障したい ④県新人の県大会はできる日でやったらいいのではないかと ⑤各連盟の大会(春季、夏季、秋季)とあすなろリーグとの年間スケジュール表があれば検討しやすい ⑥趣旨は理解し、賛同します。大会が少ない選手のことを考えると参加したい気持ちではありますが、来年度のことが今はわからないので何とも言えない状態です。チームの人数、学校行事だとか、移動の手段、費用だとか。帯同審判も今は私しか資格がないため顧問の状況(人事異動)によってできなくなる可能性があります。今後ずっと地域にいてみてくれる人がいないと参加ができなくなるときがくるのではないのでしょうか？ ⑦顧問が審判資格の無い場合がある。
十和田・上北・三沢地区	<ul style="list-style-type: none"> ①顧問としては参加したいが、学校が渋る。特にサッカー一部は今年度から高円宮がリーグ戦になった関係で、大会数は増えていないのに、試合数が増えたため、「サッカーは大会が多くないか。でるのを控えたら？」などと毎回いわれ、大会への参加の許可を取りづらくなっている。来年度「あすなろリーグ」に参加したいと言うと、また、いろいろ言われそう ②参加チーム数によっては、参加を見直すこともあります。例えば、7チームしか参加しないとか ③来年度の新入部員の人数によって参加できるかが変わるので、本来であれば20年度のU-14から参加したい